

編集後記



昨年は先端基礎研究交流棟が完成し、引っ越しを終えて快適な夏を過ごし、やれやれというところで臨界事故が起き、思わぬ事で東海村が本当に有名になってしまった。この事故は油断や慣れというものがいかに恐ろしいかをまざまざと教えてくれた。先端研究は過去に築き上げられた土台の上に構築されるものであり、その土台が崩れてはいい建物ができないのは当たり前である。最近、いろいろな所で日本型システムの崩壊が指摘されているが、新しい千年を迎えた今、我々の果たすべき役割はなんだろうか？ (S.C)